

TONOMACHI TOWN CAMPUS OF KEIO UNIVERSITY

Tonomachi
Town Campus of Keio University

慶應義塾大学

殿町タウンキャンパス

ライフサイエンスと地域連携を軸に、再生医療、ヘルスケア、ウェルビーイング、人材育成、地域連携、社会実装、イノベーションといったキーワードのもと、地域社会と共に先端研究・教育を担うキャンパス

慶應義塾大学 再生医療リサーチセンター

KRM : Keio University Regenerative Medicine Research Center

再生医療リサーチセンターは、再生医療や疾患治療・予防の進歩、発展、および人材育成を通じて、人類の健康増進と福祉の向上に寄与することを目的とし、2024年4月に設立されました。既存の枠組みにとらわれず、オーダーメイド医療の提供や、様々な疾患のモデル化と病態の解明、再生医療技術の創出や創薬など、多岐にわたる革新的な研究を推進し、すでに世界トップレベルの成果を発信しています。特に、iPS細胞創薬は当センターが最も力を入れている領域で、これまで治療法が存在しなかった疾患への新たなアプローチを提供する可能性を秘めています。未解決の医療ニーズ(Unmet Medical Needs)に対応し、“治せる未来を創り出す”ため、情熱をもって取り組み、日本の首都圏における医学・生命科学分野の最強のエコシステムを構築するための先導的な役割を担っていきます。



慶應義塾大学 教授
再生医療リサーチセンター長
岡野 栄之



殿町・羽田 再生医療拠点

CReM TONOHANE : Cluster for Regenerative Medicine in Tonomachi Haneda

殿町・羽田再生医療拠点は、再生・細胞遺伝子治療の実用化および世界展開を加速するためのプラットフォームとして、大学・企業・公的研究機関等が一体となり、研究開発や社会実装に向けた様々な活動を行っています。

①シーズの開発・実装の促進、②開発プロセスの確立・精緻化による国際基準の構築、③バリューチェーンの形成をミッションに掲げ、細胞品質評価技術の確立、再生医療等製品の有効性・安全性の確保、社会的理解の形成に向けて多方面からアプローチします。

また医療機関とも連携し、治療過程で得られたデータがアカデミアや公的研究機関にフィードバックされる仕組みにより、エビデンスに基づく高品質な製品・サービスが国内外で安定的に展開されることを目指します。



慶應義塾大学医学部 教授
殿町・羽田再生医療拠点
運営委員会議長
中村 雅也





殿町先端研究教育連携
スクエア特区特任教授
谷川原 祐介

ファーマコメトリクスを活用して 薬物治療の最適化を目指す

医薬品投与時の有効性と安全性を数理モデルで解析し、シミュレーションを駆使して最適投与法を見出すファーマコメトリクス研究の拠点です。医薬品開発への応用や薬物治療の最適化をめざす研究に取り組んでいます。併せて、ファーマコメトリクス人材育成講座を開講し、社会に開かれた学びの場を提供しています。



大学院システムデザイン・
マネジメント研究科 教授
神武 直彦

ジュニアドクター育成 「KEIO WIZARD」

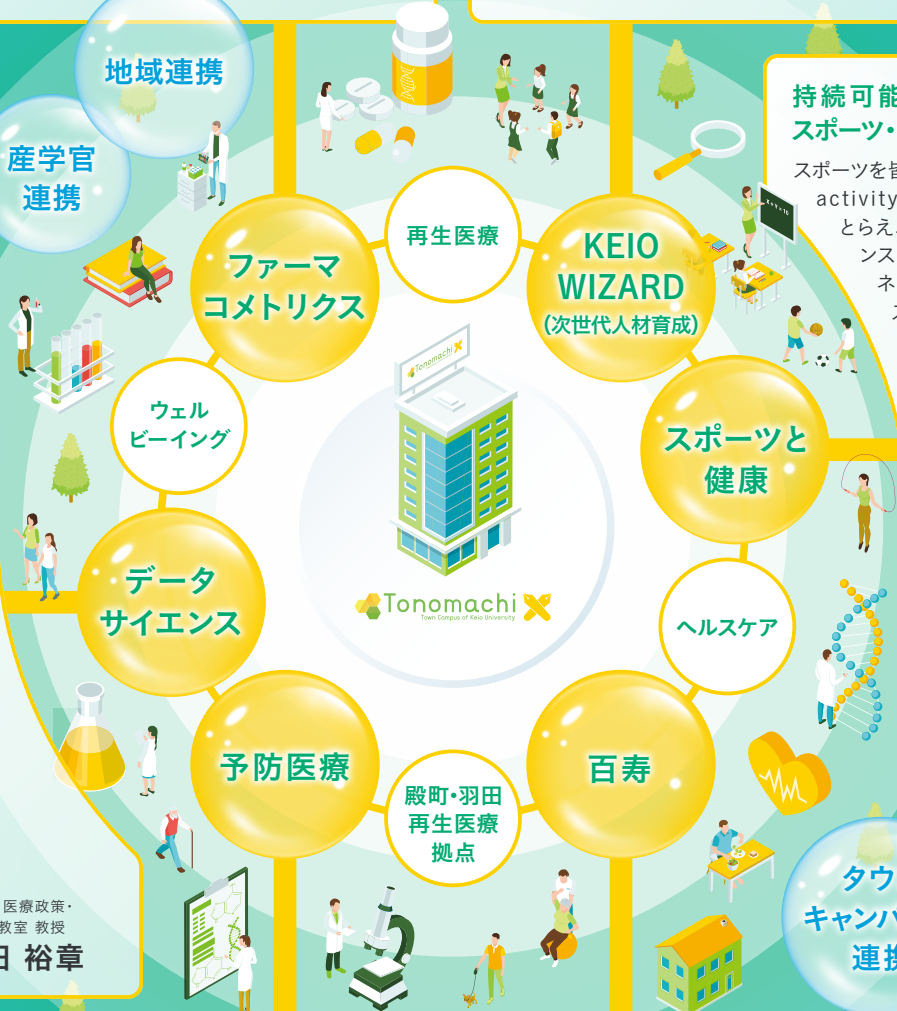
医療、健康、宇宙、数理、情報などに興味関心のある小中学生を対象として、身近な疑問や興味から課題を見つけ、システム×デザイン思考に基づく大学主導型探求学習により、知り、考え、対話し、伝えるプロセスと得た気づきを多様な仲間と教え学び合い、実現したい未来に至るための解決法を研究し実践できる人材を育成します。

データサイエンス を活用したウェル ビーイング社会の 実現

データサイエンスなどの科学を駆使して高度な次世代サービスを生み出し誰もが住みやすく持続可能なウェルビーイング社会の実現を目指しています。データ利活用の推進による個人に最適な健康・医療・介護サービス提供に留まらず、医学領域を超えて新しい社会ビジョンの実現に向けて多様な活動を展開しています。



医学部 医療政策・
管理学教室 教授
宮田 裕章



持続可能なバランスの取れた スポーツ・運動・身体活動の促進

スポーツを皆が日々行えるもの (physical activity & sports) として広義にとらえ、社会・経済・環境へのバランスのとれた影響を踏まえ、コベネフィットが得られる多様なステークホルダーとともに、学術的な研究成果と実践的な取り組みを融合させ、健康上の効果や、より上位のウェルビーイングのサステナブルな達成を目指します。



スポーツ医学研究センター/
大学院健康マネジメント
研究科 教授
小熊 祐子



医学部 ヒルス未来予防医療・
ウェルネス共同研究講座 特任教授
岸本 泰士郎

あらゆる人たちが ウェルビーイングを実現できる 社会を目指す

私たちは予防医学、行動科学の最先端の治験を活用し、あらゆる人たちが社会でいきいきと過ごせるような技術開発に取り組んでいます。(疾患の早期サインをとらえるスクリーニング技術、将来の健康状態を推定するシミュレーションマシン、障害があっても社会活動が守られる金融システムなど)



看護医療学部 教授
医学部百寿総合研究センター長
新井 康通

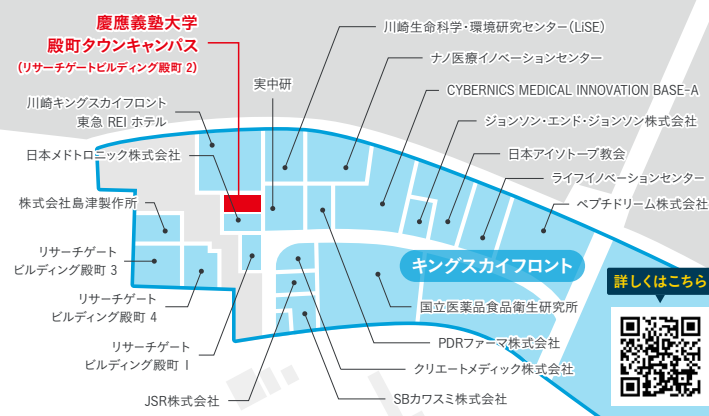
高齢者の生活の質の確保と 社会保障システムの持続可能性を両立

世界最大級の百寿者調査を通じて蓄積された研究バイオリソースを最大限に活用して、マルチオミックス解析、シングルセル解析などの最先端の研究手法を駆使し認知症やフレイルなどをはじめとした加齢関連疾患の新たな治療・介入戦略を創出するトランスレーショナルな長寿医療研究に取り組んでいます。

殿町タウンキャンパス(殿町先端研究教育連携スクエア)

慶應義塾大学殿町タウンキャンパスは、世界最高水準の研究開発から新産業を創出するオープンイノベーション拠点として川崎市が川崎区殿町地区に整備したキングスカイフロントに、2016年4月に開設されました。ライフサイエンスと地域連携を軸に、学部・研究科の枠組みを超えて先端研究・教育・イノベーションを担うキャンパスとして活動しています。また、羽田空港から多摩川を挟んだ対岸に位置しており、空港側とキングスカイフロントをつなぐ連絡橋「多摩川スカイブリッジ」により、羽田空港まで車で5分という立地を活かして、国内はもとより世界につながる研究拠点として活発な研究活動をおこなっています。創業、再生医療、ヘルスケア、ウェルビーイング、人材育成、イノベーションなどのキーワードのもと、地域社会、産業界と共に、発展を目指していきます。

神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-10 Research Gate Building TONOMACHI 2棟
info-tonomachi@adst.keio.ac.jp



詳しくはこちら

